



CLA 関東支部情報誌

Vol.32 2024.3

みどりの手帖



CLAの技術・事例特集

◆ 渋谷の方位磁針/ハチの宇宙

2019年7月「渋谷区のとあるプロジェクトで、コンパスのベンチを作りたい。」とアーティストの鈴木康広氏よりメールが届く。1年後のMIYASHITA PARKのパブリックアートの相談であった。

鈴木氏は身近な事象を独特な見立てで捉え、見る人を一目で引き込むような作品を制作するアーティストである。

鈴木氏独特のスケッチから育っていくイメージを、後から追いかけていく。ベンチが実は渋谷区の形で方位磁針でもあり、南北に広がる公園が街や地上に繋がっていることを暗示させるという。ユニークな発想に目からこぼれた鱗を捨集めてこちらにも知恵を絞る。アーティストの出発点は内なる想い。斜め上から飛んでくる。最初は無理難題だが見方を変えるとこれほど面白い協働はない。

ベンチに鎮座するハチを鈴木氏は最後まで悩んでいたが、星になった上野教授を見上げる姿となった。さらに先生が亡くなった日の渋谷の星空をハチに投影し夜は光を放つと言う。このコンセプトを聞いたときは、「ムリやる」と内心思いながらも石膏でモックアップを作り照明を仕込んでみるとナルホドと腑に落ち、工夫してなんとか実現した。渋谷にお越しの際はぜひ立ち寄り、空を見つめるハチの肩を抱き寄せてほしい。

株式会社中村製作所 岩満 恭大



いきものコラム その31

「ハチ公」

渋谷駅のシンボルとして世界中に愛される「ハチ公」は、2023年に誕生100年を迎えました。これを記念した「HACHI100プロジェクト」では、様々な企業やメーカーとコラボしたイベント企画や商品の開発がなされています。

ハチ公は海外でも知名度が高く国の天然記念物である秋田犬ですが、明治時代には他の地方の犬種や外国産の大型犬種との交配が積極的に行われてきました。大正時代に入ってから保存運動・復興への取組みが本格化し、1931年(昭和)に国の天然記念物の指定を受けました。

このような道を経て、数年前には元大相撲力士の白鵬翔さん、平昌オリンピックフィギュア



渋谷を訪れる人たちに撫でられ前足がピカピカになった「ハチ公」の銅像

スケート女子金メダリストのアリーナ・ザギトワさんなどの海外の著名人にも贈呈され、日本犬として海外と日本をつなぐ架け橋にもなっています。

渋谷は駅舎の増改築や周囲の再開発事業が進み、「ハチ公」像はハチ公前広場の再整備に伴い場所が変わるかもしれませんが、「ハチ公」はこれからもずっと渋谷のまちを見守り続けていこう。どのようなまちに変化していくのか、今後目が見えませんか。

株式会社ブレイク研究所 森田 緑



ハチ公誕生100年 Webサイト

気になるお店

今回はMIYASHITA PARK内にある「READING LIFEの提供」を行う次世代型書店をご紹介します。

天狼院カフェ SHIBUYA



「天狼院カフェ SHIBUYA」の店内では、写真の本を中心に、最新のビジネス書から話題の本まで、幅広いラインナップを取り揃えています。

また、併設しているカフェの人気メニューの「元彼が好きだったバターチキンカレー」は、たくさんの人々が集まり賑わうMIYASHITA PARKでパンチの効いた一品となっています。ここが他の書店と違う点は、学びの場や仲

間との出会い等、本の先にある体験までも提供しているところです。

特にカメラに特化した「フォト散歩」や「モデル撮影会」などのフォトイベントを数多く開催しています。その他、著者によるセミナーやワークショップも連日開催しており、最近ではAIを使いこなすための「AIパイロット養成ラボ」が人気とのこと。

なりたい自分に一歩近づくために、ぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。

社員の方の思い入れの詰まったメニュー



住所 ● 東京都渋谷区神宮前 6-20-10
RAYARD MIYASHITA PARK South3F
電話 ● 03-6450-6261
営業時間 ● 11:00 ~ 21:00
交通 ● JR線・東京メトロ・東横線・京王井の頭線「渋谷」駅 徒歩5分
H.P ● <https://mitsui-shopping-park.com/urban/miyashita/store/1568498.html>



編集後記

今回の特集は、渋谷宮下公園。「若者の街」として知られる渋谷ですが、その歴史を踏まえ、改めて見てみると、日々変化・革新していることが分かります。年寄りには、迷路のような街ですが、この街の息吹を感じて、活力をもらおうようにしたいですね。(泉地)

みどりの手帖 Vol. 32 2024年3月

発行者 (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関東支部長 光益 尚登
〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-3-7 近江会館ビル8階
TEL 03-3662-8266 FAX 03-3662-8268

企画・編集 CLA 関東支部広報委員会 高橋 和嗣、加藤 愛、泉地 善雄
中尾 慶命、森田 緑

表紙写真 MIYASHITA PARK 俯瞰 (提供:株式会社竹中工務店) / 小窓写真 宮下公園・ハチ夜景 (提供:株式会社中村製作所)
※テキスト及び画像の転載・転用を禁じます。



「日本花の会結城農場・桜の見本園」見学会が開催されました。

みどりの手帖 vol.31 の特集「桜とランドスケープ」にて紹介した(公財)日本花の会特任研究員の和田博幸さんが携わる「日本花の会結城農場・桜の見本園」の現地見学会がさる4月14日に開催されました。

桜の見本園では、国内外から約400種の桜の品種を収集し、野生種の系統ごとに品種を植栽しています。関東支部会員各社の若手からベテランまで幅広く約40人が参加し、交流を深めながら和田さんの解説のもと「関山」や「一葉」など満開の品種を満喫しました。



リレー紹介! RLAなヒトビト



四戸 香織 Kaori Shinoe

登録ランドスケープアーキテクト (RLA)、樹木医。東京都出身。建設コンサルタント勤務を経て令和元年よりワーク・ジオ主宰。主な作品に日本キャピラーデモンストレーションセンター前庭設計および設計監理、医療法人鉄蕉会亀田病院外構改修設計(ビー・ランドスケープ共同設計)等。樹木調査、みどりをテーマとしたワークショップ多数。NPO 法人東京樹木医プロジェクト理事。

大学では建築学科で学び、卒業後はコンサルタントでランドスケープ設計に従事しRLAを取得しました。資格を得てからはRLAの方々と共に本を執筆したり、各検討会で討議したりとRLAの皆さんと協働する機会が増えていきました。皆で協力し合って次世代のランドスケープ業務をきり拓いていく検討作業に参加することは、刺激の連続です。

RLAの技術者と接し自らの日々の業務にも当たる中で、都市における樹木や植物の意味がとても大きなものを感じられるようになりました。これが自分の追うべきテーマではないかと。そして樹木医資格を取得しました。RLAと樹木医は一見違うスキルのようにも見えますが、私はそのようには考えておらず常に業務の中で一体化しています。また仕事は、そのように自分で創っていくのもであるとも思います。

RLAを取得したことで自らのテーマが明確化され、次のステップがまた次を生むのですね。ランドスケープアーキテクチャは社会と連動している職能です。追究したいことはまだまだたくさんあります。

特集

ランドスケープのしごと「都市公園新時代の管理運営とランドスケープ」

齋藤正徳さん/大坊健さん

CLAの技術・事例特集
関東支部の活動紹介

ランドスケープのしごと：都市公園新時代の管理運営とランドスケープ

特集



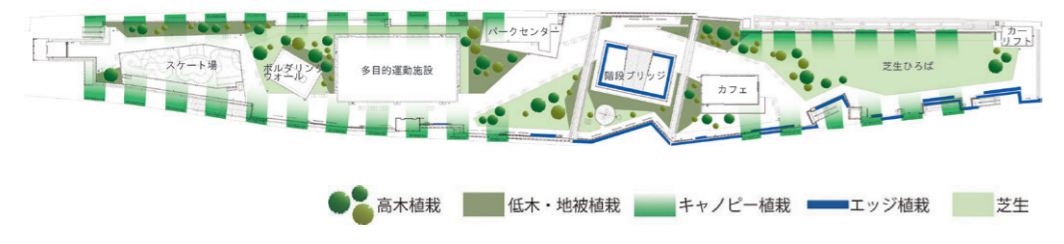
大坊さん

齋藤さん

全国の都市公園は既に一定の面積が整備され、R4年には国土交通省公園緑地課から「都市公園の柔軟な管理運営に関する検討会」の提言が出されました。今後は公園管理の時代と言われています。そんな中、これまで時代の変化と社会課題の奔流の中で何度かの再生を余儀なくされてきた宮下公園が、近年大きくリニューアルされ若者を中心に来街者の人気を集めると共に、新しい管理手法についても注目されています。渋谷区立宮下公園の指定管理業務を担う二人に新しい管理運営技術や斬新な予算調達についてお話を伺いました。

I 「MIYASHITA PARK」の大胆な植栽管理

JR山手線と明治通り、渋谷川暗渠に挟まれた長さ約330mの「MIYASHITA PARK」は立体都市公園制度を活用し、地上約17mの島状に浮かびあがる、商業施設やホテルと融合した多種多様な人々の交流や多様なライフスタイルを受け入れる新しい形の都市公園。個性豊かな都市・渋谷の賑わいのある立体都市公園において、指定管理者の西武造園株式会社は未来型を意識した植栽管理を実施されています。



● 高木植栽 ● 低木・地被植栽 ● キャンピープ植栽 ● エッジ植栽 ● 芝生

多彩なイベントに活用される「芝生ひろば」

2020年7月に開園して以降、10代から20代を中心とした多くの来園者の日常利用に加え、多彩なイベントが開催されています。イベントエリアとしての利用が人気の「芝生ひろば」は、人流や座り込みなど、踏圧や摩耗による芝生の劣化が激しい状態に陥りました。

「カフェやオブジェ周りの一部分はやむなく人工芝としたエリアもありますが、天然の芝生を維持することが指定管理者としてのポリシーであるため劣化した芝生の全面張り替えに踏み切りました。」と西武造園株式会社の齋藤さんは語ります。

通常の維持管理費では芝生の張り替え費は賅えないため、イベントや屋外広告による協賛金の収益を還元し芝生の張り替えを実現したとのことです。通常「東京都屋外広告物条例」により公共の公園においての広告掲示は禁止されていますが、今回、東京都より広告掲示の特例を受け制限付きの屋外広告やイベントを行なえるようになりました。特例を取るためのひとつのプロセスとして、イベントや広告宣伝の内容・デザインなどについて「第三者委員会」による審査を受け、適性を諮っている



踏圧や摩耗により劣化した芝生

そうです。土地の特性から企業からの屋外広告やイベント開催の要望は多く、屋外広告等の協賛金収益を公園運営への還元化は継続的に進んでいくと思われます。

芝生は、ダメージ耐性タイプの改良日本芝（エルトロ）を採用し、芝生の状況、ダメージ具合をみてイベント開催の間、1～2週間ほどの養生期間を設ける等で維持管理を行っています。芝刈りは24時間対応でロボット芝刈り機「オートモア」が活用されています。

地下駐車場とつながっているカーリフトの存在は大きく、大胆な植栽管理の実現化を担っています。カーリフトにより、通常の間管理作業時の資材搬入に加え、芝生張り替え施工の資材や管理車両等といった大物の搬入が可能となっています。

公園に木陰をつくる緑の天蓋「緑化キャンपी」

屋上の耐荷重や植栽基盤構造、植栽可能な高木本数等いくつかの制限から、高木による十分な緑量の確保が難しいため、「緑化キャンピー」を設定し緑量や緑陰の形成を図っています。「緑化キャンピー」について西武造園株式会社の大坊さんは「指定管理開始時に提案した『緑の10年計画』に基づき、2年間の活着養生期間を経て現在、育成・養生期間中として年に2回の切り戻し剪定などを行いながら順調に緑量を増やしている状態です。」と語っています。



活躍する自動芝刈り機「オートモア」



緑の天蓋として育成・養生期間中の「緑化キャンピー」

キャンピーを彩る主なつる性植物				
植物名	クレマチス	カロライナジャスミン	ツキヌキニンドウ	トケイソウ
				
花期	4～10月	4～6月	4～10月	5～10月
常緑 or 落葉	落葉性・常緑性両方あり	常緑	半常緑	半常緑

II 個性的な施設や企画運営

「多目的運動施設」は屋上では珍しいビーチバレー・サッカー対応のエリアです。毎月第1水曜日には砂地を利用したスポーツイベント「MIYASHITA SPORTS BEACH」が行われ、ビーチバレー・サッカーで楽しむ人が集います。また、砂場としても子ども達が活用しており子供専用の「MIYASHITA KIDS PARK」が毎月第2・4日曜日に開催されています。屋上ゆえに犬猫の心配は無く衛生的です。

スケートボードパークとしてはやや上級者向きながらも、初心者向けスクールも開催されている「スケート場」や、「ボルダリングウォール」などは、渋谷若者文化を象徴するアーバンスポーツ施設群です。「芝生ひろば」は憩いの空間であるとともに、地元商店会との盆おどり、日本酒イベント、クリスマスイベント、子供向けイベント等々、飲食・子ども・スポーツと多様な渋谷らしいイベント会場として活用され、取材当日もハンバーガー祭でした。また、アースデイ、渋谷ズンチャカ、ブルガリアイベント（マルテニツァ）など渋谷区共催のイベントも開催され官民連携も盛んです。



「MIYASHITA KIDS PARK」



「スケート場」

MIYASHITA PARK の諸元

- 都市公園＋商業施設＋宿泊施設が一体となったミクストユース型街区
 - ・商業施設（1～3階）：「RAYARD MIYASHITA PARK」
 - ・ホテル棟（18階建）：「sequence MIYASHITA PARK」
- 【屋上】渋谷区立宮下公園（占有使用権を渋谷区が無償付与受ける）
- 【土地】渋谷区より三井不動産株式会社が定期借地（34年10か月間）
- 【地下】都市計画駐車場（区分所有として渋谷区が無償譲渡受ける）
- 【事業主】三井不動産株式会社
- 【設計】株式会社竹中工務店
- 【プロジェクトアーキテクト】株式会社日建設計
- 【施工】株式会社竹中工務店
- 【指定管理業務（1.27ha）】宮下公園パートナーズ（代表企業三井不動産株式会社、構成企業西武造園株式会社）

齋藤正徳さん（写真右）

西武造園株式会社 東日本統括支店 管理運営部 部長
静岡大学農学部森林資源科学科を卒業後、西武造園株式会社に入社。施工管理、営業、人工土壌事業を経て、2009年から管理運営事業に配属以来、公園の所長や、複数の公園を統括するエリアマネージャーを務めている。自宅ではクサガメを40年以上飼育している。

大坊健さん（写真左）

西武造園株式会社 渋谷区立宮下公園 所長
国土建設学院にて造園学を学び、卒業後、特殊土木の会社を経て2012年西武造園株式会社に入社。国営公園で大規模花畑の管理を10年程担当し、渋谷区立宮下公園に開業準備期間から着任、2023年より所長に就任。趣味は散歩、年末年始に山手線1周を歩いて街の移り変わりを観察するのが楽しみ。

宮下公園 今昔モノガタリ

かつては江戸の西端にすぎなかった渋谷ですが、明治期に谷筋を軸に道路や鉄道も整備され開発が進みます。宮



提供：東急株式会社（1967年撮影）

下公園は渋谷川と宇田川のY字形をなす谷筋の合流点で谷底部付近に位置します。

最初の公園計画は1948年に「復興土地区画整理事業」において、「東京戦災復興計画の緑地計画」の「沿線緑地帯」として省線（山手線）を挟んだ東西に神宮通公園と共に事業決定されました。

1953年10月には1.05haの児童公園として開園。渋谷川の改修・暗渠化や道路整備等の都市基盤整備に挟まれ、細長い平地の渋谷区立公園として誕生しました。

モータリゼーションの進展により路上駐車が都市問題となり都心部の駐車場整備が喫緊の課題となった1967年には、都市計画駐車場を一階とし屋上公園（児童公園）として再整備されます。

1993年には都市公園法改正により児童公園から街区公園に種別が変更され、児童公園設置基準を遵守した遊具等の改変が可能になり、2006年3月には課金型のフットサル場やクラブハウスが設置されました。

2011年4月には「みやしたこうえん」としてリニューアルオープン。

その後、渋谷区が官民連携（PPP）事業として、大規模再開発が連鎖する渋谷駅周辺地区の都市再生事業とリンクする新宮下公園整備事業を導入。立体都市公園制度と定期借地権の活用を条件とした公開プロポーザルにより2015年2月に三井不動産株式会社が選定されました。

2019年12月指定管理者として宮下公園パートナーズ（三井不動産・西武造園）が選定されます。2020年7月に初めて南北が一体化した公園として、三階建て商業施設の屋上に開園し現在に至ります。